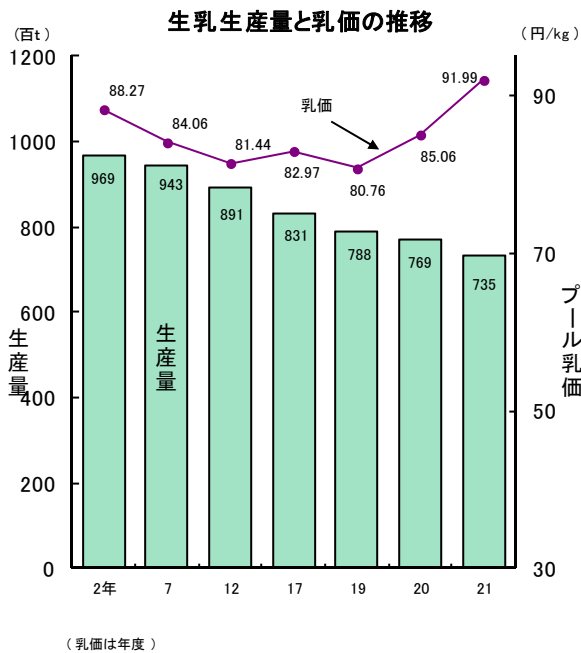
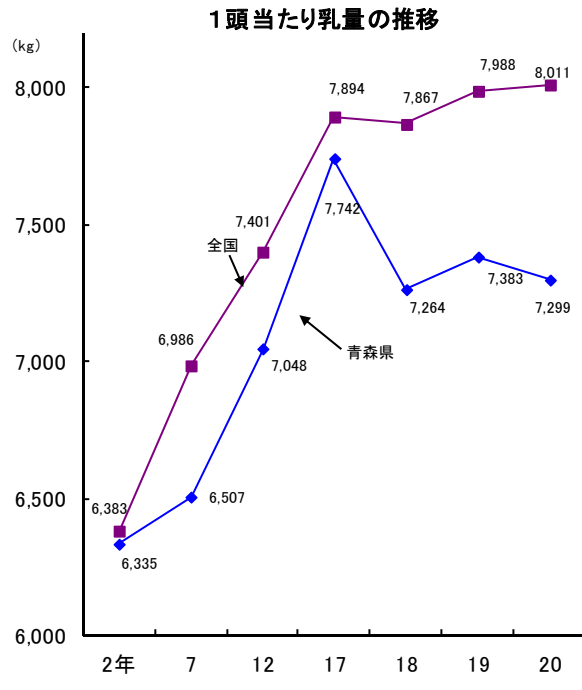
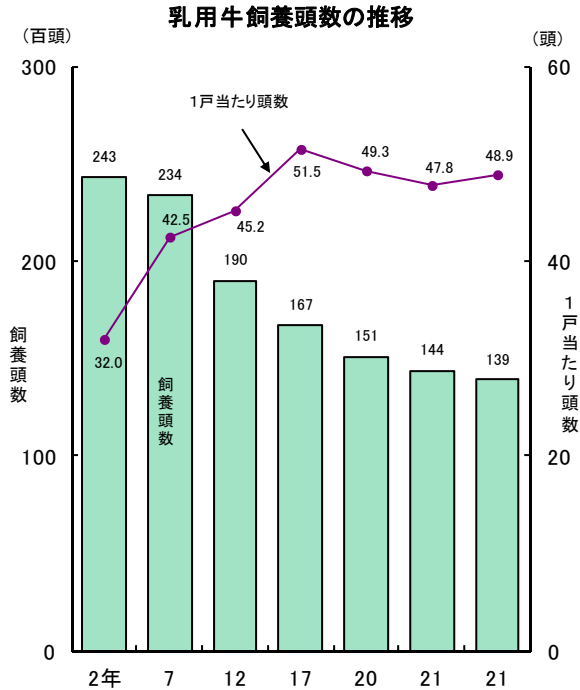


## 畜産（生乳の生産と流通）

### ～乳用牛の飼養頭数、生乳生産量は減少～

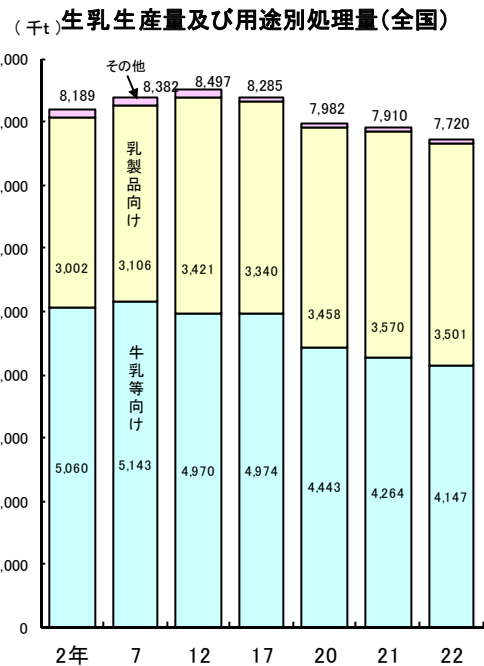
平成22年の乳用牛の飼養頭数は1万3,900頭となり前年よりやや減少した。1戸当たりの飼養頭数はわずかに増加した。

平成20年の1戸当たり乳量は前年を下回り、全国との差が大きくなってきている。また、飼養頭数の減少等により、生乳生産量は7万6,873tと前年を下回った。全国的にも牛乳・乳製品の消費低迷により生乳生産量は低下している。



注) 21年は速報値、14年度以降のプール乳価は運賃を含む

資料：農林水産省牛乳・乳製品統計、全農青森県本部



注) 21年は速報値

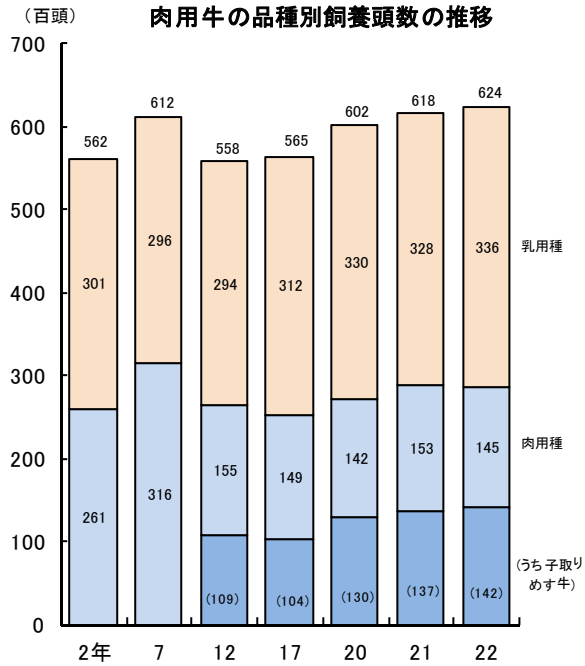
資料：農林水産省牛乳乳製品統計

## 畜産（肉用牛の生産と流通）

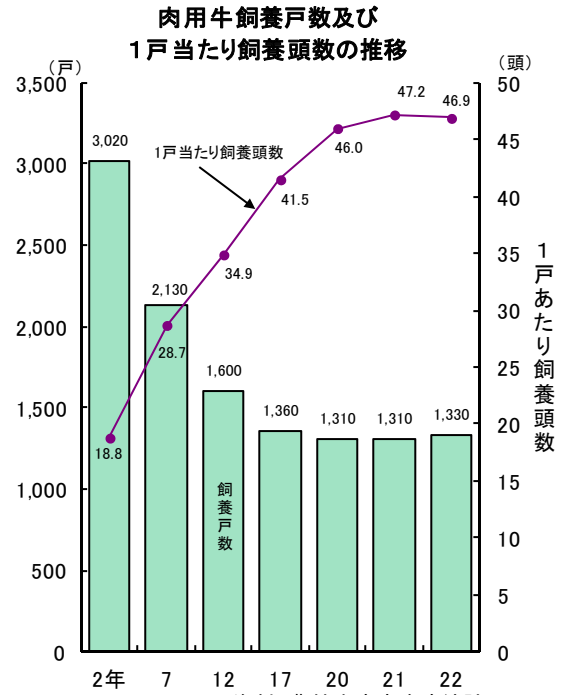
### ～肉用子牛、枝肉価格が低迷～

平成22年の肉用牛の飼養頭数は、6万2,400頭と前年を上回った。また飼養戸数は1,330戸と前年より増加し、1戸当たりの飼養頭数は46.9頭となった。頭数の品種構成は、肉専用種が46%、乳用交雑種が54%となっている。

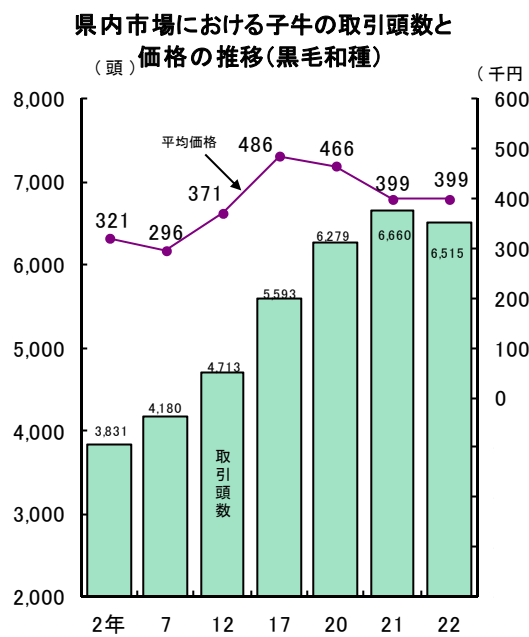
22年の黒毛和種指定肉用子牛取引頭数は6,515頭、平均価格は399千円となった。枝肉価格は、平成13年9月のBSE発生で下落後、上昇を続けていたが、平成19年以降は消費低迷により下落している。



資料：農林水産省畜産統計

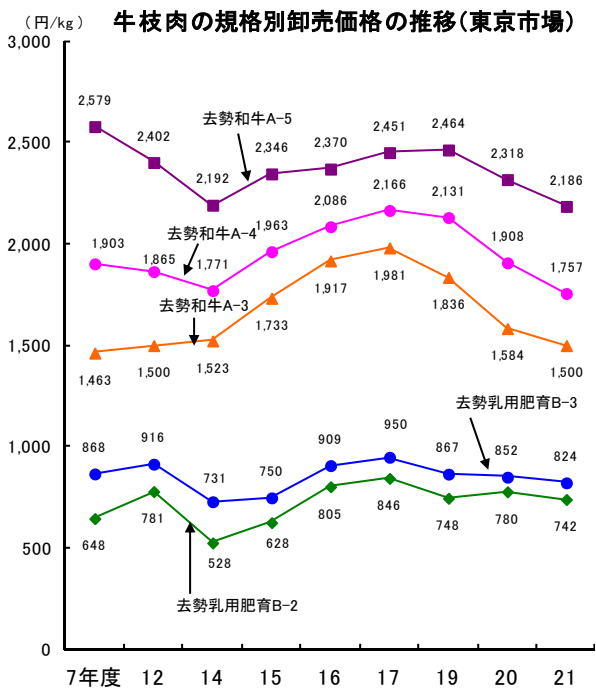


資料：農林水産省畜産統計



注)平成12年からは指定肉用子牛の集計値

資料：県畜産課、農畜産業振興機構子牛取引

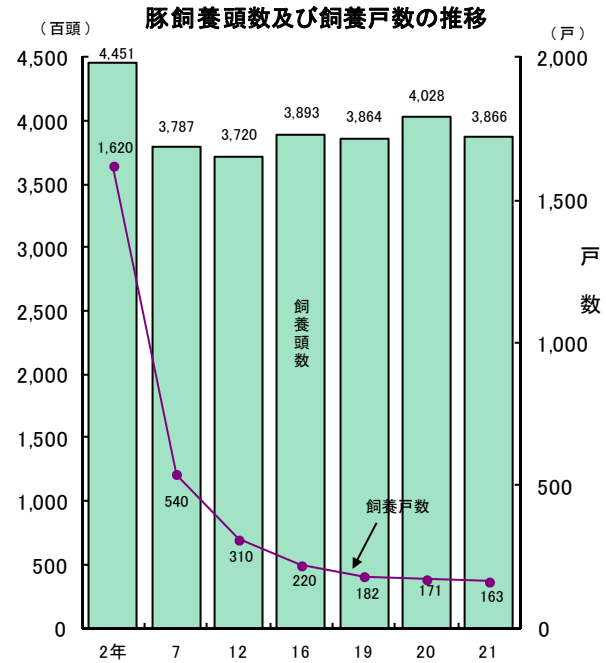


資料：農林水産省食肉流通統計、食肉市況

## 畜産（豚の生産と流通）

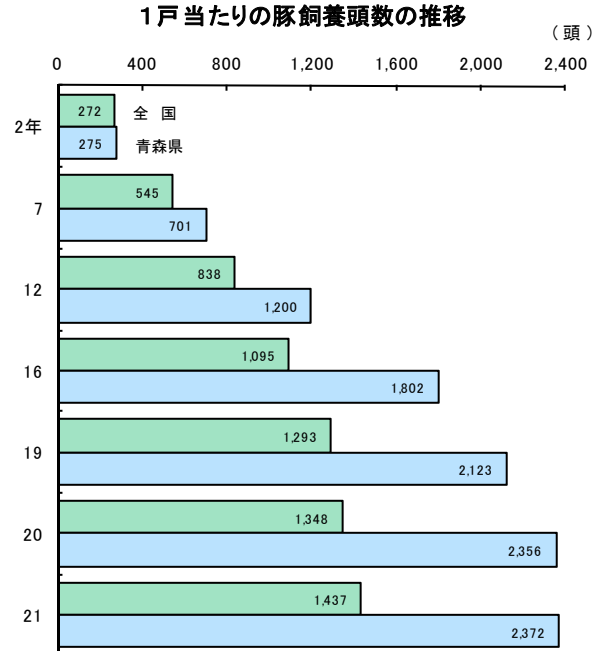
### ～豚の飼養規模は全国平均を大きく上回る～

平成 21 年の豚の飼養戸数は 163 戸と前年よりも減少し、飼養頭数も前年を下回り 38 万 6,600 頭となった。1 戸当たりの飼養頭数は 2,372 頭となり、全国平均（1,437 頭）を大きく上回り、規模拡大が進んでいる。肉豚出荷頭数は平成 7 年以降は 70 万頭程度で推移している。



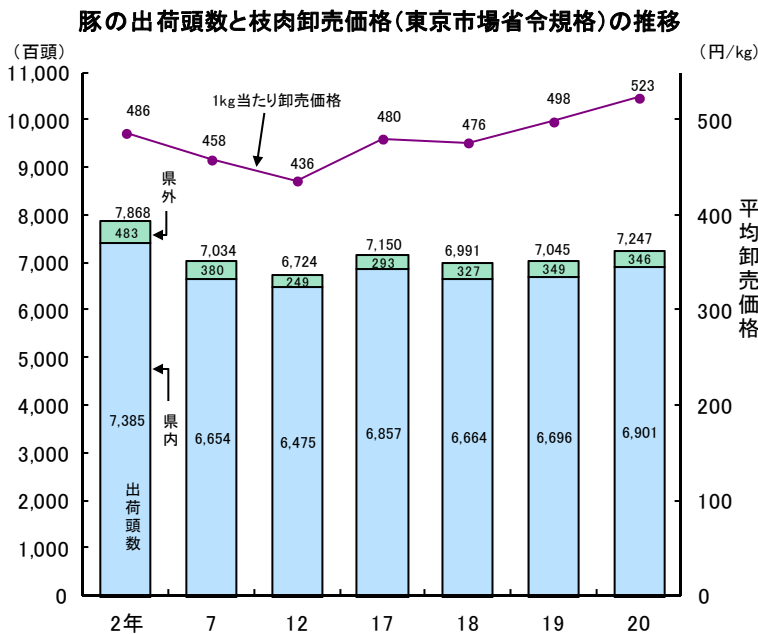
注) 17年は農林業センサス実施年のため調査は中止

資料: 農林水産省畜産統計

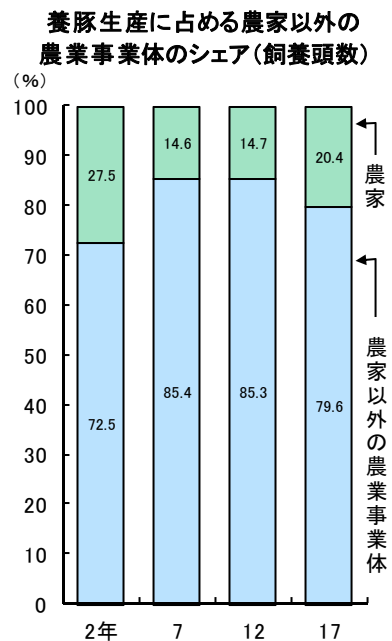


注) 17年は農林業センサス実施年のため調査は中止

資料: 農林水産省畜産統計



資料: 農林水産省食肉流通統計



資料: 農林業センサス

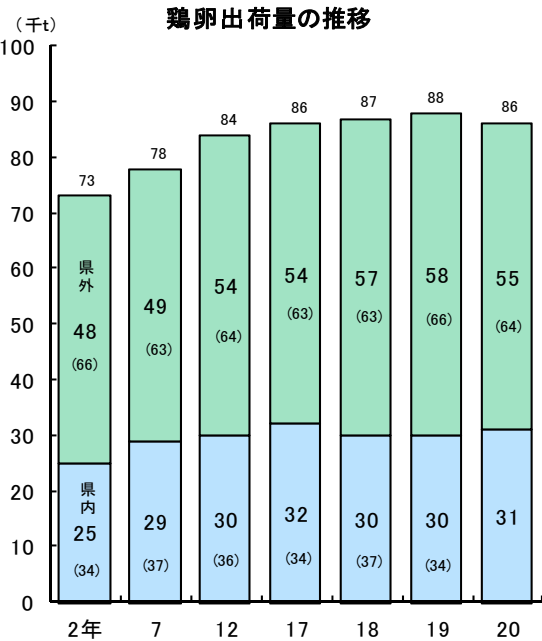
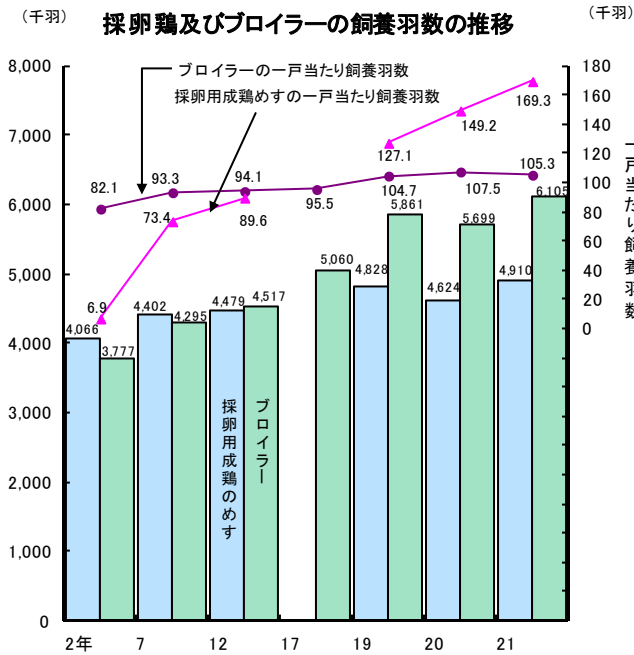
## 畜産（採卵鶏・ブロイラーの生産と流通）

### ～採卵鶏の飼養羽数が増加～

平成21年の採卵用成鶏めす飼養羽数は491万羽と前年をかなり上回った。1戸当たりの飼養羽数は16万9,300羽で、農家以外の農業事業者による生産シェアが高いことから全国平均（4万5,000羽）を大きく上回り、全国第1位である。また、平成20年の鶏卵出荷量は8万5,799tと前年を下回った。

平成21年のブロイラーの飼養羽数は、611万羽で前年をかなり上回った。

平成20年のブロイラーの出荷量は、38,228千羽で前年を上回った。

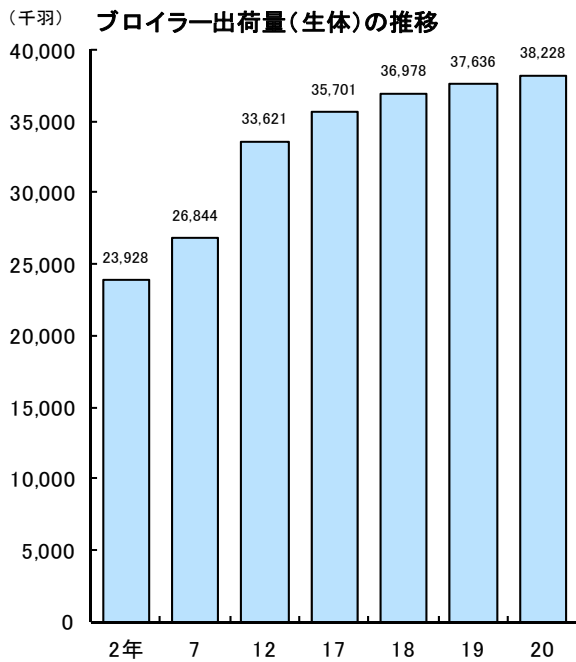


注) ( )内は構成割合 (%)

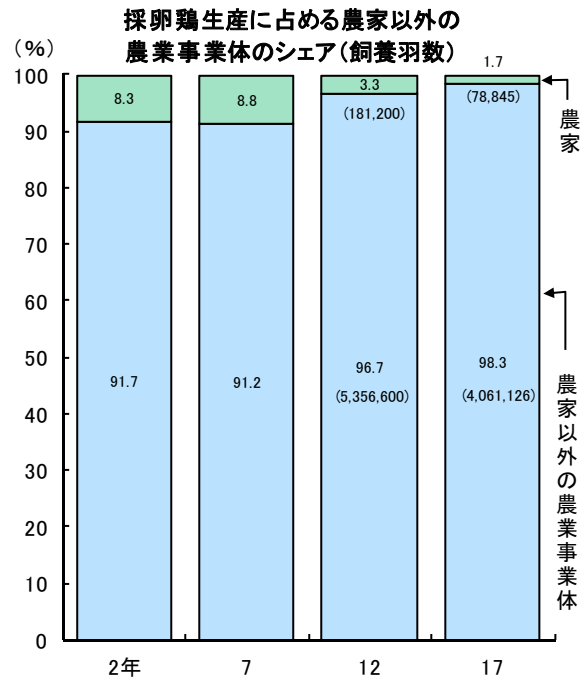
資料：農林水産省畜産物流通統計

注) 採卵用成鶏めすの飼養羽数調査は、平成7～9年まで300羽以上飼養を対象、平成10～16年まで1,000羽以上飼養を対象、平成17年は農林業センサス実施年のため調査は中止

資料：農林水産省畜産統



資料：農林水産省畜産物流通統計

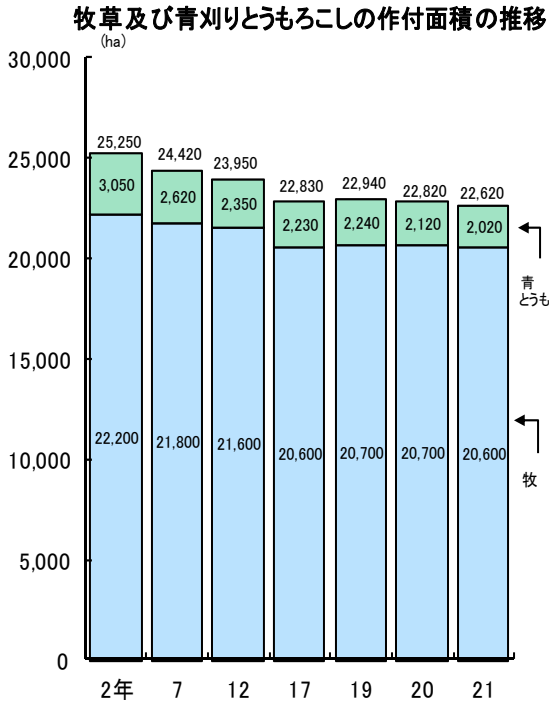


資料：農林業センサス

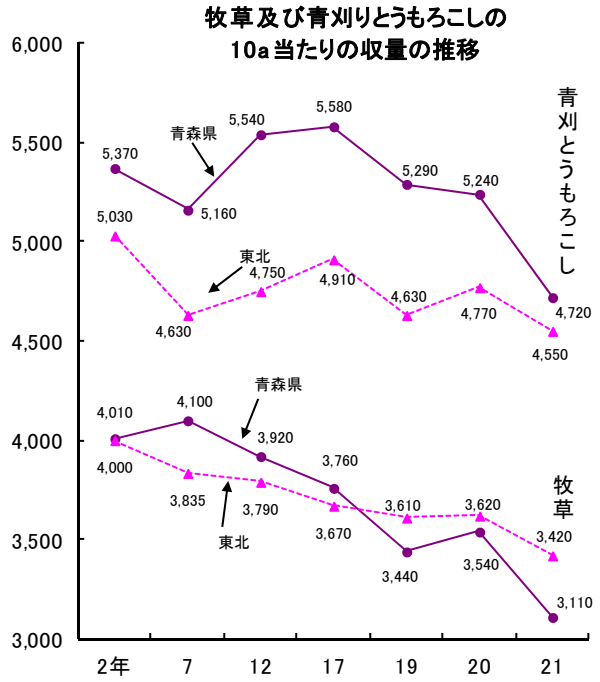
## 畜産（飼料の生産と流通）

### ～牧草面積は横ばい～

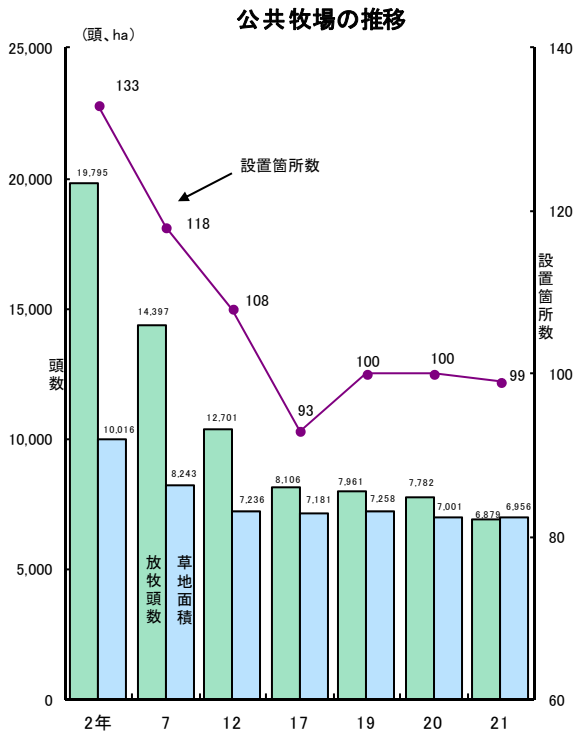
平成 21 年の牧草と青刈とうもろこしの作付面積は、2 万 2,620ha と前年よりわずかに減少した。  
 牧草の及び青刈とうもろこしの収量は、前年より減少した。  
 配合・混合飼料の県内流通量は 1,061 千 t と前年をわずかに上回った。



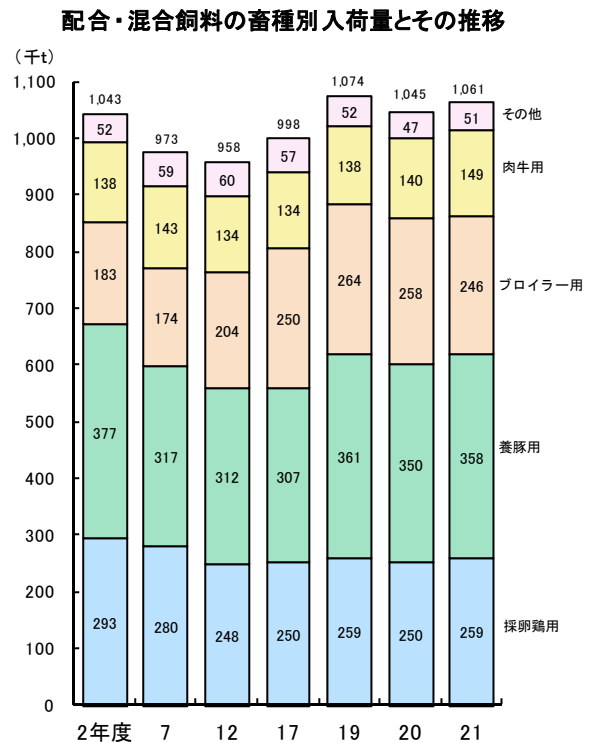
資料：農林水産省作物統計



資料：農林水産省作物統計



資料：県畜産課



資料：飼料月報